

2025 年度（令和 7 年度）事業活動報告書

法人の名称 特定非営利活動法人グリーンママ

1 事業の成果

（１）育児支援に関する事業

「みどりっこ親子の居場所はなまる」（以下はなまる）「緑区地域子育て支援拠点いっぽ」（以下いっぽ）の運営、『みどりっこひろば』を通した子育てに関する情報の提供など行い一定の成果を上げた。

はなまるでは、ひろば、一時預かりとともに昨年よりも利用者数が増え、短時間でも気軽に利用することができる居場所になっている。

いっぽでは、十日市場・長津田 2 拠点になり、それぞれの拠点の特徴をいかして利用者を迎え入れている。また、区内を 7 地区にわけた地区別の取組みにも力を入れた。5 年の委託期間最終年度であり、5 年間の事業振り返りを行いながら、この先の拠点のあるべき姿を考え、次期運営法人に選定された。

法人の設立 20 周年イベントを行った。年代を問わず誰でも楽しめるイベントになるよう企画を工夫した、子育て中の親子だけでなく、子育てサポートシステム提供会員や今まで関わりのあったボランティア、支援者などとも交流できる場になり喜ばれた。

（２）障がいのある子どもと親への支援事業

子どもの発達に不安のある親が交流できる場として、「気になる子のサロン」、「なないろ★ほっとタイム」を継続して開催した。当事者である先輩ママの継続した参加があり、学齢期も含めた年齢幅の広い情報提供ができるようになっている。また、地域の事業所等の参加もあり、支援施設や支援者とのつながりを作る場にもなっている。

今年度は障がい理解講座を開催した。ダウン症をテーマに、当事者の保護者や支援者が特性や対応について学ぶ機会となった。

（３）児童及び青少年の健全育成にかかる事業

いっぽにて学生ボランティアや実習受入れ行い、乳幼児との交流の機会を提供した。

2 事業内容

（１）育児支援に関する事業

①「みどりっこ親子の居場所はなまる」の運営

実施日時	月～金曜日 午前 9 時 30 分～午後 4 時 45 分 土曜日（月 1 回）午前 9 時 30 分～午後 2 時 45 分
実施場所	みどりっこ親子の居場所はなまる
従事者	3 人/1 日
対象	緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者（おもに 0～3 歳児）
支出額	12,260,414 円
事業実績 （ ）内数値は前年度実績	<ひろば> 年間利用者数（大人・子ども）：4,970 人（4,232 人） 一日当たりの平均利用者数：20.2 人（17.3 人） 新規登録者数（子どもの数）：189 人（209 人） <一時預かり> のべ預かり児童数：269 人（260 人） 総利用時間数：850.50 時間（773 時間）

【1 年間の報告】

- ・利用料が無料ということで午後の短時間の利用や、ランチスペースを利用しての昼食をはさんだ利用が増えた。利用のしやすさが利用者増加につながっている。区役所に近いということもあり健診の前後に利用する方も増えた。
- ・0 歳児のひろば利用が 50% 近くなり、0～1 歳児の利用が 80% 以上を占めている。毎月 2 回開催の 0 歳児対象のプログラム「ひよこタイム」への参加も多く、利用者同士の交流の場となっている。
- ・Instagram を開始した。利用する人が多い Instagram を使って、直近の情報を写真でわかりやすく紹介している。ホームページやはなまる通信だけでなく、周知の手段が増えた。

- ・12月に中山地域ケアプラザの会場でクリスマス会を開催した。募集人数も25組とし、日頃の広場では体験できないような「おはなし会」などを企画することができた。まだ、はなまるに来所したことのない人にも、はなまるを知ってもらうきっかけとなった。また、以前ひろばでボランティアをしてくださっていた方にお手伝いのお声掛けをしたところ快く引き受けてくださり、6年ぶりに“サンタ”として登場していただいた。中山地域ケアプラザとも今後ひろば外での活動でつながりをもっていきたい。
- ・妊娠期の方に向けたプログラム「マタニティタイム」の周知として、区での母親教室・プレパパママ講座・いっぽでのプレパパママのプログラムでチラシ配布をお願いしている。産休に入った出産間際に参加する方が増えているようで、周知のタイミングが難しいと感じている。
- ・緑区こども家庭支援課、いっぽ、つどいの広場みらいポケットとの連絡会に参加し、情報交換や今後の連携について話した。特に妊娠期からの取り組み、一時預かりについては、より連携を深めていきたい。
- ・発達に不安等のあるお子さんをお持ちの親子が集える場「なないろ★ほっとタイム」をはなまる、いっぽ、中山地域ケアプラザの共催で、3ヶ月に1回中山地域で開催した。各回にテーマを設けることにより、参加のしやすさや自身の話しをするきっかけとなっている。
- ・入館時の受付方法を、利用者が受付表へ記入する方法から、スタッフが会員番号を入力しての管理システムに変更した。これにより利用者の負担も軽減し、ペーパーレスや受付の集計作業の軽減にもなった。
- ・一時預かりの利用数は年間を通して昨年とほぼ同じだったが、稼働率でみると年平均約20%が、10月は8.8%と低く、12月3月は30%近くと高かった。10月の減少は近隣の幼稚園が3歳児入園を始めたことが影響していると考えられる。後半が高かったのは毎年の傾向で保育園入園前に預ける方が増えたことが考えられる。

②「緑区地域子育て支援拠点いっぽ」の運営

ア. 「親子の居場所事業」「子育て相談事業」「情報収集・提供事業」「ネットワーク事業」「人材育成・活動支援事業」「利用者支援事業」

実施日時	火～土曜日 午前9時～午後5時
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ・いっぽサテライト
従事者	12人/1日
対象	緑区及び近隣在住の未就学児とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	64,700,817円
事業実績	年間利用者数（大人・子ども）：31,514人（29,764人） 一日当たりの平均利用者数：130.8人（123.5人） 十日市場：16,850人（18,750人） 平均69.9人（77.8人）／日 長津田：14,664人（11,014人） 平均60.8（45.7人）／日 令和7年度新規登録者数（子ども）：1,195人（2,287人） 新規ボランティア登録者：十日市場12人（22人）・長津田9人（35人） 年間ボランティアのべ活動者数 十日市場692人（683人） 長津田666人（453人） 利用者支援事業相談件数 464件（291件）
（）内数値は前年度実績	

【1年間の報告】

○親子の居場所事業

- ・利用する主な子どもが0歳児、1歳児となる中、対象児とその保護者向けのプログラム（「ねんねサロン」「ベビパパママタイム」「あかちゃんとのふれあいあそび」「1歳児あつまれ」）を継続して行い、利用者間の交流をうながした。
- ・開所2年目となるサテライトでは、長津田地区を中心に利用者が増えた。利用者の声を聞きながらプログラムを工夫し、利用者が講師となるプログラムも実施した。
- ・妊娠期の方向けの取組みとして、サテライトでマタニティヨガやアロママッサージなど、希望者が多いプログラムを取り入れて、参加者が増えるよう工夫した。
- ・サテライトでは、多くのボランティア登録があり、それぞれ得意なこと活かして、ひろばだけでなく、おはなし会、修繕、清掃など活躍の場を設けている。
- ・英語・中国語とやさしい日本語に対応した保育園・幼稚園ガイダンスを実施した。
- ・ひとり親サロン、気になる子のサロンを継続して実施した。参加しやすさを考え日曜日の開催日を設けた。

- ・ママボランティア（登録者 35 人）に、リユースの準備、「公園であそぼう」「パパおい DAY」「1 歳児あつまれ」などのプログラムに入ってもらった。近い年齢のママボラが入ること
で、交流しやすい雰囲気を作り、参加のハードルを下げることに繋がっている。
- ・小中学生のボランティアをひろばで受け入れた。ひろばで遊ぶことが、小中学生、利用者親子双方にとって得るものがある交流になっている。
- ・利用者発案のプログラム「みんなのしゃべりば」（小学校入学前の情報交換、高齢出産したママ集まれ、幼稚園選びなど）の開催をとおして、利用者の主体的な利用をうながした。

○子育て相談事業

- ・開館前のミーティングや終了後の振り返りでひろばの様子を共有し対応に活かしている。
- ・ひろばスタッフは利用者との日常的な会話から、養育者の様子をくみ取り、いっぽで実施している専門相談や、子育てパートナー、区役所の相談事業などの利用をすすめている。継続した対応が必要なケースは、子育てパートナーにつなげながら見守りを行った。
- ・ひろば相談の項目で多いものは、親自身（親自身の育児不安・健康・友人関係・家族関係など）26.6%、生活（子どもの食事・排泄・睡眠・遊びなど）18.1%、就園（園選び・プレ幼稚園、保育園などで悩んでいる）17.9%となっている。

○情報収集提供事業

- ・インスタグラムでの情報提供を継続して行った（フォロワー R7 年度末 2141 人 前年度末 1816 人）。
- ・区内の支援の場を英語とやさしい日本語で紹介したリーフレットを作成した。国際交流ラウンジの協力のもと外国籍の区内転入者全員に配布している。
- ・みどりっこひろばと連動させて、区内の情報収集・提供を行った。

○ネットワーク事業

- ・スタッフが区内 7 地区の担当に分かれ、地区ごとの公園遊びへの参加、赤ちゃん教室・子育て支援者会場への訪問を行い、それぞれの地区の様子を知る機会を作った。
- ・「みどり子育て支援連絡会」全体会、地区別連絡会を行った。地区別連絡会では、地域ケアプラザと協力しながら地区ごとの状況にあわせた取組みを進めた（地域マップ作り、当事者の声を聞く座談会開催、地区の施設を回るスタンプラリー実施など）。
- ・区内 7 地区の公園に出向いて行う「公園であそぼう」では、遊びの提供だけでなく、ふだんいっぽまで足を運ばない人にもいっぽが持つ情報が提供できるよう準備した。

○人材育成・活動支援事業

- ・「みどり子育て支援交流会」を 3 年ぶりに行った。「子育て世代と地域が共に育つまち・緑区へ」をテーマに講演会を行い、子育て世代と地域とのつながりづくりについて考える機会を作った。（講師：三輪律江氏 99 人参加）
- ・障がい理解講座や子育て支援交流会への参加を子育てサポートシステムの会員へ周知した。
- ・小学生ボランティアを受け入れた。大学生も継続的に受け入れている。

○利用者支援事業

- ・今年度より子育てパートナーが 2 人になり、地域に出る機会を増やした（子育て支援者定例会、自立支援協議会、障がい児者ネットワークの会議への出席や、保育園・幼稚園、区内の産婦人科への周知など）。
- ・子育てサポートシステムの入会説明会時に利用者支援事業の紹介を行い、相談につなげた。
- ・シングルママのしゃべりばでは、初めて日曜日に開催し、地域の方から提供された野菜を使った食事の提供も行うなど、いつもとちがうひろばを気兼ねなく利用してもらった。
- ・「先輩パパによる 赤ちゃんのいる生活講座」に子育てパートナーが入り、十日市場で 2 回、長津田で 2 回開催した。プレパパとして受講した者が出産後先輩パパとして講座内で話をしてもらえよう声掛けを行った。
- ・区内 4 箇所で行われた「みどりっこまつり」では、パートナー 2 人で分担し、情報提供をおこなうとともに、保育園とのつながりも深めることができた。
- ・「外国語による保育園ガイダンス」を実施した。資料作成のために聞き取り等を行い、外国人市民が多く住む地区（霧が丘）にある保育園・幼稚園の様子を知る機会になった。

イ.「横浜子育てサポートシステム」緑区支部運営

実施日時	火～土曜日 午前9時～午後5時
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	3人/1日
対象	横浜市在住の0歳から小学生とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	11,306,849円
事業実績 ()内数値は前年度実績	会員数：利用会員 1,003人(978人) 提供両方会員 246人(272人) 令和7年度入会者数：利用会員 307人(305人) 提供両方会員 32人(20人) コーディネート件数：352件(355件) 実働会員数：利用会員のべ 1,335人(1,030人) 提供・両方会員のべ 895人(698人) 活動件数：7,500件(6,605件) 入会説明会：44回実施 274人参加(44回 343人) 〈うち利用会員 245人・提供・両方会員 29人〉 個別説明：78人参加〈利用会員 73人 提供・両方会員 5人〉(88人) フォローアップ研修：3/5 9人参加 交流会：7/3 10人参加 10/10 6人参加 10/22 5人参加 12/10 10人参加 1/24 8人参加 2/13 10人参加 子育てサポート通信：2回発行 「いっぽ保育隊」：活動件数 78件 のべ活動者 109人 保育子ども 407人 (活動件数 76件 のべ活動者 105人 保育子ども 347人)

【1年間の報告】

○サポートの業務・利用状況について

- ・「地域子育て支援拠点サイト」の導入で会員への利用方法の説明、周知などを通して会員とのコミュニケーションの機会が増えている。
- ・子サポ de あずかりおためし券をきっかけに、いっぽやサテライトでのひろば預かりの利用も多く利用件数が昨年度に比べ1割強増えた。
- ・外国籍の利用会員の依頼には、丁寧に内容等を聞き取り調整を行い、利用につなげることができた。
- ・区外の利用会員からの依頼にも極力対応することができた。

○提供会員募集・活動支援について

- ・提供会員予定者研修会(実地研修)を10月と12月と2回の開催。31名の会員登録があった。
- ・eラーニングの導入により子育て中の利用会員の研修受講がしやすくなった。受講者が増え、利用会員から両方会員への変更が増えた(13名)。
- ・提供会員の交流会の開催(6回)を増やし会員とのコミュニケーションをとる機会を増やした。交流会では会員同士が活動に関する情報共有を行ったり、新しく登録した会員の活動に対する思いや希望などを丁寧に聞き取ることで、会員の希望する活動につなげた。

③子育てに関する情報の発信・提供

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ
従事者	2人
対象	緑区および近隣の未就学児とその保護者
支出額	827,377円
事業実績	『みどりっこひろば』:随時情報更新 『みどりっこひろば』メールマガジン:毎月発行 637人登録(前年度 674人) 支援者向けメールマガジン『いっぽメールニュース』:月 1～2回発行 83人登録(前年度 82人登録)

【1年間の報告】

- ・今年度より『みどりっこひろば』に保育園の施設開放の情報も掲載するようになり、提供する情報が多くなった。閲覧数も増えている。子育て中の養育者が求めている地域の情報が手に入りやすくなるよう、集まった情報は『みどりっこひろば』だけでなく、いっぽのInstagramやひろばでの提供も行った。

④集団出張保育

実施日時	通年
実施場所	みどりスポーツセンター
従事者	登録スタッフ 28人
対象	緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども
支出額	11,026円
事業実績	出張保育：3回 のべ6名（前年度 実績なし） 出張おはなし会：1回

【1年間の報告】

- ・みどりスポーツセンターの単発ヨガイベントの預かり保育を行った。スポーツセンターでの預かりは6年ぶりとなったが、備品や安全管理など確認しながら実施した。以前定期保育を行っていた時と同じスペースで預かりを行っていたところ、スポーツセンターを利用する一般の方からそこでの託児を歓迎する声がかかり、出張保育が地域の人と子育て世代をつなぐ機会になることを感じた。
- ・みどり地域活動ホームあおぞら主催の「コスモスフェスタ」のおはなし会に出演した。いっぽサテライトのボランティアを中心に絵本の読み聞かせと手遊びを行った。ボランティアが地域で活躍できる機会がひろがった。

⑤地域に向けた子育て支援の促進事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽほか
従事者	7人
対象	緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども
支出額	546,829円

【1年間の報告】

- ・緑区こども家庭支援課より受託している「赤ちゃん教室」中山会場、長津田会場の運営・進行を行った。手遊びやわらべうたなど内容を工夫している。長津田会場で知り合いになった親同士がいっぽサテライトを利用するなど周知の機会になっている。
- ・横浜市の子育て家庭応援事業「ハマハグ」の新規店舗開拓事業を受託し、区内にある子育てを応援する店舗や施設を回り、登録依頼を行った。利用者ボランティアに回る店舗の選定や登録依頼のための訪問を担ってもらい、地域情報収集の場にもなった。
- ・参加している地域の連絡会等に継続して参加し、顔の見える関係づくりをすすめた。

<参加している緑区内の委員会・団体等>

「緑区地域施設間連携会議（ミドリネット）」
「緑区要保護児童対策地域協議会」 いっぽ、はなまるとともに参加
「緑区セイフティネット会議」
「十日市場施設間連携会議」
「緑区読書活動推進連絡会」
「緑区防災ネットワーク運営委員会」
「緑区地域福祉保健計画推進策定委員会」
「緑区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会」（委員 太田さおり）
「緑区市民活動支援センター運営委員会」（運営委員 鈴木純子）
「横浜市北部地域療育センター運営協議会」
「緑区国際交流ラウンジ」（運営法人理事 松浦千恵）
「緑区地域自立支援協議会こども支援部会」（世話人 浅沼彩子）
「みどり障がい児者ネットワーク」
「緑区社会福祉協議会NPO等分科会」
「子育てひろば全国連絡協議会」正会員
「十日市場自治会」特別会員
「新治西部地区社会福祉協議会」会員

⑥法人設立 20 周年記念事業

実施日時	令和7年6月～令和8年3月
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ・十日市場地区センター
従事者	実行委員 6人
対象	緑区および近隣区の子育て中の保護者とその子ども、子育て支援者、関連機関・施設、地域の方
支出額	969,800 円
事業実績	イベント参加者 約 400 人

【1年間の報告】

- ・十日市場地区センターを会場に「GreenmamaFunDay」を行った。緑区近隣に住む親子、子育て支援者等が参加できる記念イベントとし、これまで活動を支えてくださった感謝を伝える場をつくった。
- ・はなまる、いっぽの業務担当部署から1名ずつ実行委員を出し準備をすすめた。それぞれの部署がブースを担当し、子どもから大人まで楽しめるイベントになるよう企画した。
- ・現在ひろばを利用している子育て中の方々、地域の施設・団体、ボランティアなどの協力を得て、多世代に向けたプログラムが実施できた。
- ・当日は想定を上回る来場者があり、親子あそび、おはなし会、ハイハイレース、ポッチャ対戦、ヨーヨー釣り、ゲームコーナー、ミニコンサート、喫茶コーナー、野菜・飲食の販売など、楽しんでもらえた。かつての利用者やボランティアが交流できる場にもなった。
- ・これまでのグリーンママの活動を振り返る年表を会場に掲示した。

(2) 障がいのある子どもと親への支援事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽ・中山地域ケアプラザ・長津田地域ケアプラザ
従事者	4人
対象	緑区および近隣の未就学児及び小学生とその保護者、子育て支援に関わる人
支出額	25,725 円
事業実績	気になる子のサロン 年間9回実施 126人(大人64人・子ども62人)参加 先輩ママ14人、事業所等支援者78人参加 なないろ★ほっとタイム 年間4回実施 35人(大人18人・子ども17人) 先輩ママ9人、事業所等支援者44人参加 障がい理解講座 38人参加

【1年間の報告】

- ・発達に不安等のある子どもの親が集える場「気になる子のサロン」「なないろ★ほっとタイム」をいっぽ、中山地域ケアプラザを会場に開催した。1年を通して、中山地区、十日市場地区、長津田地区と毎月どこかの地区で1回開催する日程とした。横浜市北部療育センターの職員に定期的に参加してもらい、相談できる場としている。地域の事業所からの見学者もあり、養育者やスタッフが事業所からアドバイスをもらえる場にもなっている。また、事業所に養育者の生の声を届ける場にもなっている。
- ・「気になる子のサロン」を、いっぽ休館日である8月の月曜日と2月の日曜日に実施した。ひろばで気兼ねなく遊べる時間とするとともに、小学生も参加できる日程にした。
- ・障がい理解講座として「ダウン症の気になるあれこれ 基本的理解と支援」(講師：蔵圭二氏)を実施した。ダウン症の特性や日常的な接し方についてなど、当事者と支援者が共に学ぶ場になった。
- ・十日市場地区にある障害福祉関連の事業所が合同で行っている作品展「10 展会」に初めて参加した。事業所間のつながりをつくるとともに、グリーンママが行っている関連の事業を紹介した。

(3) 児童及び青少年の健全育成にかかる事業

実施日時	通年
実施場所	緑区地域子育て支援拠点いっぽほか

従 事 者	3 人
対 象	地域の中学生・高校生、福祉・子育て関連職に就く者
支 出 額	0 円（主にいっばの事業の中で行った）
事 業 実 績	学生ボランティア のべ 130 人（73 人）大学等実習生受入れ 68 人（57 人）

【1 年間の報告】

- ・十日市場中学校へのボランティア募集を夏休み期間に行い、ひろばでの見守りやイベントの手伝いをしてもらった。霧が丘のインターナショナルスクールに通うインド人中学生が利用者の英語サークルの手伝いとして定期的に参加している。
- ・横浜創英大学こども教育学部の学生が定期的に拠点を訪れ、ひろばでの絵本読み聞かせなど行った。
- ・NPO インターンシップでは、学生の特技をいかした企画をスタッフが共に考え学生が主体的に参加できるよう工夫した。
- ・看護学校（横浜創英大学・横浜実践看護専門学校、イムス横浜国際看護専門学校）の母性看護学実習・地域包括ケア実習で、実際に親子とふれあいながら子育て家庭の現状を知り、それぞれの学びにつなげることができた。

2025 年度（令和 7 年度） 事業費合計 90,648,837 円